

心を図解する

1320907 長谷川雅子

令和6年度 東京藝術大学 大学院 美術研究科 博士後期課程学位論文 要旨

はじめに 図解という方法 –抽象的な感情を具現化し、心を整理する方法–

私の作品には、丸窓や文字といった「図解」と呼ばれる技法が用いられている。抽象的で捉え難い感情や、揺れ動く心を冷静に観察しようという態度が、いつしかこの「図解」という技法として作品の中に現れてきた。これらはただの装飾やデザインとして用いるものではない。私自身の心という主観から距離を置いて、俯瞰し客観視するための技法である。本論ではこのような経緯で生まれた自作を、「心を図解する」と捉え論じていく。

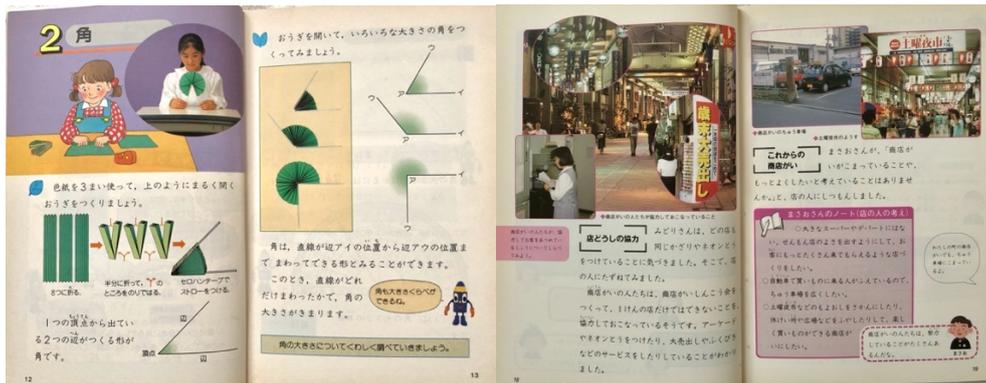


図1 教科書における図解

第1章 心象の根源

第1章では、過去の作品を振り返りながら、筆者がなぜ感情や心といった抽象的なものへと関心が生まれたかを、個人的な生い立ち、経験を元に綴っていく。そのような体験は、具体的に話すには生々しすぎるが故に、自身の中で教科書や図鑑の中における記号や図形といった抽象的なものへと置き換えが生まれていったのかもしれない。トラウマを象徴化した表現の例を挙げながら、何かに例えたり置き換えたりする表現の必要性について論じる。

第2章 週刊森の中 –不幸の解毒–

